



バスケットボール部 得意の速効で勝利を

関東大学バスケットボールリーグ戦が9月4日に開幕、各地で熱戦が繰り広げられていた。

現在2部リーグBブロックに所属する東洋大は主将の須賀(経済)や阿部(経済)を中心とした速攻を持ち味とするチーム。初戦は神奈川大相手に2連敗を喫してしまふ。試合後、主将の須賀は「自分たちの力が出せなかった。この結果は自分たちが招いてしまった」と語った。続く第2戦、対東京経済大戦では2試合とも20点以上の大差をつけ快勝。東洋らしさが出たゲームとなった。このまま波に乗って勝利を重ねたい東洋大だったが、第3戦目はこれまでリーグ戦全勝の国士館大。強豪相手に健闘するも、2連敗を喫してしまふ。「相手に気持ちよくシュートを打たせてしまった。チームの状況は良くなくてきているがあと一歩が出なかつた」と須賀と阿部は試合後、悔しそうに語り、「これからは一戦一戦全力で、完全燃焼したい」と堅い決意を見せた。まだまだ続くリーグ戦。チーム一丸となって勝利をめざす!

レスリング部 2年生の活躍光る

8月16日から20日にかけて文部科学大臣杯2004全日本学生レスリング選手権大会が福岡で行なわれた。東洋大からは多くの選手が出場したが、その中で男子では徳永(経済)2がフリースタイル66kg級で準優勝、女子でも船津(英ミミ)がフリーの48kg級で準優勝となる見事な結果を残した。徳永が出場した66kg級は出場者数が多く厳しい階級でありながらも見事な成績。一方、チャンピオ

ンとして出場した船津は、決勝で敗退してしまふが市橋監督は「できばえとしてはまあ良かった」と語った。準優勝を果たした二人以外の選手も健闘をみせた大だった。

アイススケート部 ホッケー部 準備万端でいざ 秋のリーグへ

10月3日に開幕した関東大学アイスホッケーリーグ戦での活躍に期待がかかるホッケー部門。夏には、約一ヶ月にわたる苦小牧での合宿を行ない、今大会に臨んでいる。合宿中に行われたアイスホッケー交流戦(サマーカップ)では、4位と結果こそ奮わなかったものの、「選手たちには、勝ち負けは気にせず、悪い所を見つるつもりでやれと言っていた」と小笠原監督が語るように、明らかにその日は先を見据えていた。去年の秋のリーグ戦では優勝と噂されながらもまさかの5位に沈み悔しい思いをしただけに今大会にかける思いは強い。F.Wの阿高野礼央(経済)1、日影龍太郎(社)1など、大学のリーグ戦に慣れてきた1年生の活躍にも注目だ。今年は一部リーグに2チームが加わり、合計10チームで争う。さらなる混戦、乱戦になることは間違いないだろう。「合宿ではケガ人も出ず、いい練習ができた。課題はパワーフレ、キルフレ、ハートの強化(小笠原監督)。意欲に燃える東洋大に期待したい。」

サッカー部 関東2部昇格を 賭けた戦い

現在、東洋大サッカー部は第37回東京都大学サッカーリーグ戦で熱く激しい戦いを繰り広げている。初戦の対日大文理を0-0、第2節の対立正大を1-1で終え、2試合統



けて引き分けとなかなか結果がでなかった。しかし第3節の対国學院大戦では、前半先制され、前半のうちに主将高部聖(営生)のゴールで追いつき、後半には高部が今大会2点目となるPKを決め、リーグ戦初勝利を挙げた。まずまずの滑りだして1勝したことでチームは波に乗れるはず。今後は強豪大学の戦いになるが、このまま調子をあげていけば関東2部リーグ昇格をかけた関東大会に出られるのは間違いないだろう。

準硬式野球部 抜群のチームワークで 1部リーグに挑む

現在、八王子市民球場で行われている秋季リーグ戦では初戦に春季リーグの覇者、東海大をむかえ、1戦目は落としたものの、2戦目は気持ち新たに挑み、1部リーグでの初勝利を挙げた。現時点では1勝3敗と苦しい展開だが、他大でも負けないほどのチームワークがある。現主将の古澤匠(営3)も、「自分たちの野球ができれば必ず勝つ」と力強く語ってくれた。これからの準硬式野球部の活躍に期待してほしい。

柔道部 全日本学生選手権へ 4名が

9月5日柔道家にとって聖地ともいえる日



〈取材編集〉東洋大学スポーツ新聞編集部

硬式野球部 大廣・上岡、世界大会へ

大廣翔治(マーケティング4)と上岡正慎(同3)が学生日本代表に選ばれ、7月24日から8月1日まで台湾で開催された第2回世界大会野球選手権大会に参加した。日本は前回大会を上回る銀メダルを獲得。大廣は大会を通じて3ホムランと大活躍し、上岡も1ホムランを放った。打ち勝つ野球をモットーにする東洋大学の中心選手として世界相手に健闘した。

本武道館で東京学生柔道体重別選手権大会が行われた。東洋大からは16人が出場し、その中で60kg級大森林(営3)、81kg級長部孝太(営2)、八田俊寛(営4)100kg級新垣信成(営4)の4人が10月2、3日に日本武道館で行われる全日本学生柔道体重別選手権大会の出場権を獲得した。ただ、「勝てると思っていながら負けた」と主将の八田が試合後語ったように、自分の実力を出し切れなかった選手もいたようだ。その中には橋本(営4)のようにこの大会が個人戦最後となった選手も含まれていた。「全力を出し切った悔しい。これからは後輩の指導を頑張ります」。橋本のためにも次の大会に進んだ選手には他の選手の分まで頑張る姿勢らしい結果を残してほしい。